

平成22年度共同研究の概要(成果報告書抜粋)

研究種別: 一般研究

研究代表者: 山下 博樹 (鳥取大学 地域学部・准教授)

研究協力者:

研究題目(和文):

北米乾燥地における都市の発達とその特性

研究概要(和文):

北米における乾燥地の都市開発の動向を広く把握することを今年度の目標とし、各種統計や文献を用い、アメリカ合衆国南西部の6州を対象に都市開発の動向を探った。また平成22年9月には米国の代表的な砂漠都市であるラスベガスとフェニックスを訪問し、それぞれの都市圏開発の特性などについて市役所での聞き取り調査などを行った。これらの調査により明らかになった北米乾燥地の都市開発の特徴として、大きく次の5点が明らかとなった。(1)経済活動が活発で、乾燥度も低いカリフォルニア州ではロサンゼルスなどの大都市圏以外にも都市開発が活発でその時期も比較的古くから行われてきた。(2)カリフォルニア州以外の5州では人口 10 万以上の都市開発は極めて限定的である一方、ラスベガスやフェニックスのように1990年代以後急速に人口増加を経験した都市圏もある。その背景には水資源をあまり必要としない新規産業の集積や、税制優遇などによる企業進出など、砂漠都市のデメリットを補う工夫がみられた。(3)他方でフェニックスなど拡散的な市街地拡大が進む都市圏では、公共交通網や道路などインフラの整備の負担が大きく、自治体の課題としてあがっている。(4)こうした成長過程にある砂漠都市がみられる一方、これらの地域ではその役目を終えてゴーストタウンと化した街も多数存在した。(5)このように乾燥地における都市開発は持続性の点でそれ以外の都市以上に課題が大きく、それらを念頭に置いた入念な計画に基づいて開発が進められる必要性のあることが明らかとなった。これらの分析結果は、平成23年3月の日本地理学会春季学術大会で報告する。